Abitus
株式会社アビタス
〒151-0053　東京都渋谷区代々木2-1-1　新宿マインズタワー15F
TEL：03-3299-3330　FAX：03-3299-3777

Abitus Information
アビタス通信　Vol.4 November.2008

内部監査最前線②

J-SOX対応における内部監査の役割と課題を聞く

丸紅株式会社 監査部 副部長
岡 健氏（CIA［公認内部監査人］資格者）**にインタビュー**

2004年には内部統制プロジェクト「MARICO PROJECT®」をスタート

――まず御社のJ-SOXへの取組みをお聞かせください。

岡氏　2002年米国でサーベインズ＝オクスリー法（企業改革法）が出た時点で、全社一丸となって内部統制の強化をしようと、2004年4月に内部統制システム整備プロジェクト「MARICO PROJECT」をスタートさせました。（MARは丸紅、ICOはインターナルコントロールの意味）目的は米国SOX法404条の規定と同等なものを目指そうということでした。

2004年は、ほとんど「文書化」に明け暮れましたね。業務フローの文書への落とし込みです。

2005年には、評価の段階に入っています。日本で評価及び監査の基準案が発表されたのがこの年の12月です。

そして2007年には、2008年からの本番年度を迎えても大体問題ない状態まで来ました。2007年度下期には特定の部署を選んで、本番を想定したリハーサル作業をし、良好な結果が出ています。

「ぶれない」監査ができるCIA資格者

――現在、どのような体制でJ-SOXに取組んでいますか。

岡氏　監査部は、いわゆる内部監査をするチームと、財務報告に係る内部統制を評価する内部統制システム監査チームに分けています。

内部統制システム監査チームが、リスクマネジメント部（プロジェクト事務局）で取りまとめている内部統制文書に基づいて内部統制の整備と運用状況の評価をしていきます。

2008年4月に、金融商品取引法の規定による内部統制報告制度（J-SOX）に対応する意味もあり、従来のタスクフォースを継承するかたちで「内部統制委員会」を設置しました。現在、J-SOXへの対応は、この委員会を中心に推進しています。（丸紅様のJ-SOX対応組織図は次頁）

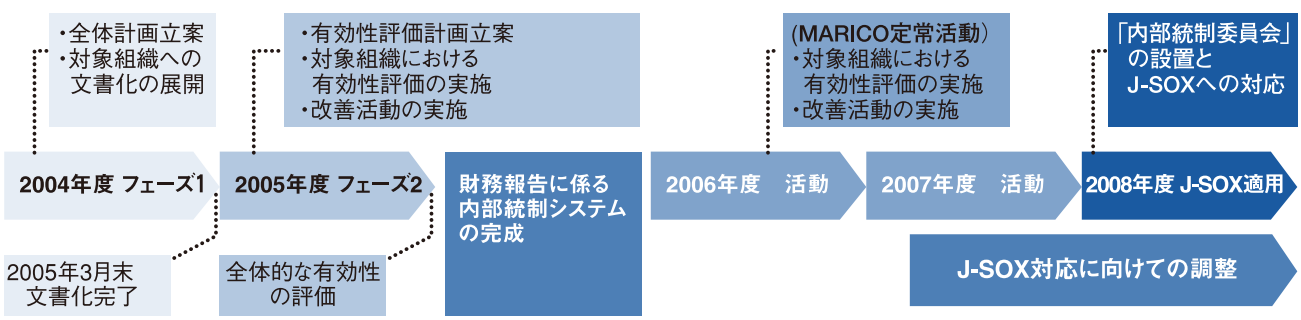
――そうした体制においてCIA（公認内部監査人）の存在意義は何でしょうか。

岡氏　監査部には58人のスタッフがいます。そのうち、CIA資格認定者が5人、認定待ち（申請中）が4人。あと1科目残しているスタッフが　6人で、彼らが今年中に受かれば15名体制になります。

CIAを持つことのメリットは、いざ監査に入った時

（次頁に続く）

丸紅様のJ-SOX対応の経緯ー2004年から今日までー



に「ぶれない」監査が出来ることです。総合商社ですから、ありとあらゆる業種業態の部門や事業会社があります。そこへ行った場合に、監査人として判断に困る場面が多々出てきます。その時の拠り所は何かといいますと、CIAで学んだ知識が大きいですね。

今後の課題はレベルを維持していくための人材育成

――かなり早い段階からJ-SOXに取組んで来られたわけですが、いろいろご苦労もあったと思いますが。

岡氏　テンプレート（文書化）には苦労しました。スタートした2004年当時はほとんど日本語のテンプレート見本がありませんでした。そこで本社営業部と国内事業会社各一ヶ所をあらかじめ指定し、テンプレートを作ることに集中しました。その出来たモデルケースを全社的に展開していったのです。

その段階でも、総合商社という性格上、本社で11の異業種部門があるので、部門別に対応した文書作成、さらに海外の事業会社の英文の文書化と、たしかに大変でした。

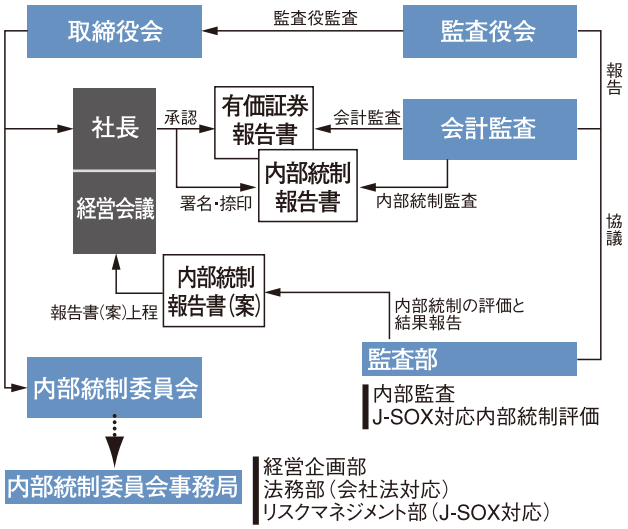
その翌年頃から、市販のテンプレートが出始めました。私共も、事業化出来るのではと考えたこともありました（笑い）。

――J-SOX対応も含めて、御社における内部監査の課題はどんなところにあるのでしょうか。

岡氏　J-SOXの本番年度が今年から始まりますが、このシステムは半永久的に続いていくわけです。そのためには、いかに後任者を育てていくかが大きな課題ですね。

つまり監査人のレベルをどう維持し高めていくか。誰がやっても同じ結果が出るようなレベルに人材を育てていく、そのプログラムをどのように組んでいくかが重要です。

丸紅様のJ-SOX対応組織図



レベルの維持という点において、CIA資格は基礎教育的な、内部監査の根本的な知識を身につける有効な方法だと考えています。

内部監査は会社の「健康診断」

――最後に岡さんにとって「内部監査」とは何でしょうか。

岡氏　「監査は健康診断」と考えています。人間も年一回は健康診断をやるように、会社も「健康診断」が必要です。私共はホームドクター、かかりつけの医者です。専門医ではなく、総合的な知識をもって診断し、改善点を指摘し、治療を促す。そういう役割と思っています。

そのためには先入観なく物事を見ることが必要です。つぎに事実関係を的確に把握すること。そして自分の持っている知識に照らして分析していく。

それではじめて他への指摘が出来るのではないでしょうか。

アビタスの法人様向け研修プログラム

アビタスは、本年6月丸紅監査部の皆様を対象とした「CIAセミナー」を開催いたしました。アビタス代表の三輪豊明を講師とし、CIA資格の説明と役割をテーマとしたものです。その他、一般社員の方向け法人研修も随時行わせていただいています。

アビタスは創設以来、財務会計やファイナンス分野の研修を手掛けてきましたが、最近は内部監査、内部統制に関する研修が増えています。研修パターンは、初級者のための基礎研修から、企業様の実情にあわせたカスタマイズ研修、そして内部監査の国際資格CIA（公認内部監査人）コース等があります。

●内部監査・内部統制に関する法人研修プログラム●

	内部監査基礎講座	内部監査基礎講座	CIA（公認内部監査人）コース	CISA®（公認情報システム監査人）コース
対象	内部監査部門スタッフ 新任内部監査人	新入社員 全社スタッフ	内部監査部門スタッフ	内部監査部門スタッフ システム関連部門
講座時間	約6時間	約2時間	約65時間	約30時間
受講形態	集合研修 eラーニング	集合研修 eラーニング	通学（新宿・銀座・大阪） DVD通信、eラーニング	通学（新宿） DVD通信

前号のアビタス通信でご紹介した

京王電鉄株式会社様が2008年度（社）日本内部監査協会「会長賞」を受賞！

内部監査の普及・発展に貢献している企業・経営組織体に授与される（社）日本内部監査協会「会長賞」（内部監査優秀実践賞）。第22回を迎えた2008年度「会長賞」に、アビタス通信第3号でご紹介した京王電鉄株式会社様が選ばれました。

審査基準は、意欲的な内容の監査テーマを継続的に行っているか、内部統制システムの整備・充実に配慮した監査を実施しているか、経営者が内部監査の結果を活用しているか等7項目。京王電鉄様はその全てで評価され、今回の受賞に至りました。

去る9月29日に新宿・京王プラザホテルで行われた、内部監査推進全国大会席上にて、日本内部監査協会から、京王電鉄の加藤社長へ表彰盾が授与されました。

おめでとうございます！

京王電鉄加藤社長（左）と水野監査部長

人材紹介

アビタスの人材紹介の強みとは
―会計・監査に特化した人材をご提供―

答える人:アビタス人材事業本部 部長 **熊谷孝裕**

登録者は他の人材会社に登録されていない優秀な人材

―他の人材紹介会社にない、アビタスの「強み」は何でしょうか。

熊谷　アビタスはU.S.CPA（米国公認会計士）、CIA（公認内部監査人）、CISA®（公認情報システム監査人）資格取得のスクールと一体運営となっています。

登録者の約半数がその卒業生、受講生で、その多くは他の人材会社に登録していない非常に質の高い人材です。私共も、スクールで勉強中の時からキャリアカウンセリングを行い、卒業後もキャリアセミナーや求人の情報提供を継続的に行っています。それによりお互いの信頼度が強まり、人材と企業様とのマッチング率の高さへ繋がっています。

登録者からの関心が高い内部監査の仕事

―現在の登録数と、登録者の方々の最近の動向についてはいかがでしょうか。

熊谷　アクティブな登録者（直近3カ月）は約450人で、年齢的には20代半ばから30代半ばで65%占めています。

一方で最近は、CIA（公認内部監査人）資格取得講座をスタート（2005年）させてから、40代から50代半ばの内部監査経験のある登録者も増えています。

希望職種の傾向は、40代50代の経験者だけではなく、20代30代の若い方が内部監査の仕事を希望する傾向にあります。今までは中高年の仕事というイメージでしたが、J-SOXで注目され、経営の観点で視野の広い業務に携わる内部監査部門への関心の高さを感じます。

変わりつつある企業様側のニーズ

―企業様側からのニーズの変化はありますか。

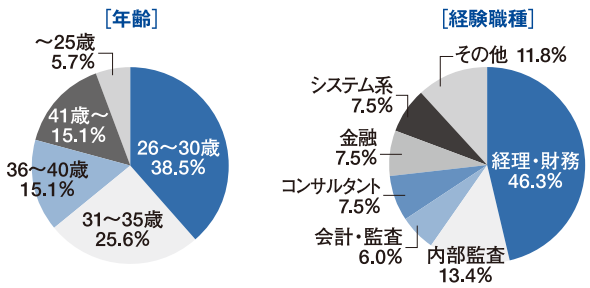
熊谷　以前は入社後すぐに即戦力になる人材を求めていたのですが、最近は内部監査の実務経験がなくても、ポテンシャルの高い、U.S.CPAやCIAなどの資格を持っている人材を採用する傾向が目立ちます。経験があればもちろんよりよいと思いますが、経験がない方でも、資格を持っていて柔軟に業務に取り組むことができる若手人材を求めているということですね。

―企業様の採用を目的とした「キャリアセミナー」ですが、どんな点が高く評価されているのですか。

熊谷　アビタスの「キャリアセミナー」は、会場を無料で提供し、参加者の動員や告知についてもお手伝いをしています。他の人材会社に比べて、参加者のレベル、採用実績が高いという声をいただいています。

私共はU.S.CPA、CIA、CISA®の資格取得者をはじめ、受講生、卒業生含めて一万名を越えるデータベースを持っており、これに基づいて「キャリアセミナー」の呼びかけを行います。このデータベースは、他社にはない強みです。企業ニーズに合った質の高い人材を、企業様の負担なし（無料）で集めることができる。この点が非常に評価されています。

【アビタス登録者プロフィール】



【登録者の一例をご紹介します。】

年齢 性別	最終学歴	英語力	保有資格	経験職種				略歴
				金融	経理 財務	監査 コンサル	内部監査 内部統制	
39 男性	立命館大学	上級レベル	U.S.CPA2科目合格、簿記2級			8年		SEとして9年間の実務を経験後、コンサルティング業界で8年間従事し、内部統制のアドバイザリー業務を担当。
50 男性	早稲田大学	初級レベル	CIA	10年			3年	保険会社での営業業務を10年間経験後、事業会社にて管理部門で9年間の実務を経て、現在は、内部監査業務に3年間従事。
41 男性	名古屋大学	中級（読み書きレベル）	公認会計士、CIA、CISA®		7年	2年	2年	公認会計士2次試験合格後、大手監査法人にて会計監査業務に2年経験。現在は、外資系企業にて経理7年、内部監査業務に2年間従事。
29 男性	東京大学	中級（読み書きレベル）	公認会計士			3年		公認会計士2次試験合格後、大手監査法人にて会計監査業務に3年間従事。英国への語学留学経験があり、中国語も習得。
33 男性	慶應義塾大学	上級レベル	U.S.CPA2科目合格		9年			1部上場素材メーカーにて9年間経理業務に従事。6年間の海外駐在経験を有し、現地法人管理部門のマネージメント業務を経験。
34 男性	大阪外国語大学	上級レベル	U.S.CPA、CIA		5年	4年		1部上場消費財メーカーで5年間の経理実務を経験後、大手監査法人にて会計監査業務に3年、内部統制のアドバイザリー業務に1年従事。
45 女性	青山学院大学	初級レベル	CISA®	20年			3年	大手金融機関にてDB系のシステム構築などに20年従事。現在は、業務監査部門にてシステム監査業務に3年間従事。
42 男性	法政大学	中級（読み書きレベル）	CIA		14年		3年	ジャスダック上場企業で14年間の経理実務経験を有し、上場企業での経理実務を一通り経験。直近は、内部監査業務に3年間従事。。
28 女性	関西学院大学	中級（読み書きレベル）	CIA、簿記1級	3年		3年		大手金融機関にて業務系システム構築の実務を3年間経験後、現在は監査法人系コンサルティング会社にて内部統制アドバイザリーに3年間従事。
37 女性	早稲田大学	中級（読み書きレベル）	U.S.CPA	12年		2年		外資系保険会社にて融資事務4年、経理8年の実務を経験。現在は、大手監査法人にて内部統制アドバイザリー業務に2年間従事。

アビタスは日本初の IFRS Certificate（国際会計基準認定資格）コースを 11月16日より開講します。

アビタスでは、日本における国際会計基準導入の動きに対応して、11月16日より国際会計基準であるIFRSに関する対策コースをスタートさせます。

国際会計基準となったIFRS

IFRSは、世界的に承認され遵守されることを目的として、IASB(国際会計基準審議会)によって設定される会計基準の総称で、通常「国際会計基準」という場合は「IFRS」を指します。

2005年におけるEU（欧州連合）での域内上場企業に対する適用義務化を契機に、IFRSの採用国が急拡大し、現在ではヨーロッパを中心に、100ヶ国以上がIFRSを自国基準として採用。インド、韓国では2011年からの採用を決定しています。

世界的にその対応が注目されていた米国は、本年8月27日、米証券取引委員会（SEC）が米国の上場企業に国際会計基準の採用を認める方針を発表。2014年に一部の大企業が採用し、2016年には中小企業も含めて導入を終えるという計画になっています。

日本でも、本年9月、金融庁、日本経団連、日本公認会計士協会が、2011年以降に国際会計基準の導入を検討すると表明しました。

こうした流れの中で、IFRSに関する知識は、国際展開をしている企業で働く上では言うまでもなく、日本国内で働く際にも今後不可欠になるということができます。

IFRS Certificate（国際会計基準認定資格）とは

IFRS Certificateとは、英国公認会計士協会のひとつであるICAEW（The Institute of Chartered Accountants in England and Wales）が主催する認定試験で、IFRSの広範な知識と理解力を測ることを目的としています。

【試験日程と会場】
2008年10月からコンピュータ試験（CBT）化され、24時間体制で自宅にて受験が可能。

【試験形式】
2時間で、客観形式問題が60問。受験言語は英語。

【合格基準】
正答率70%で合格、Certificate（認定証）が発行されます。

【IFRS Certificateコース】

IFRSに関する最新かつ幅広い知識を習得すると共に、実務においてIFRSに基づく会計処理ができるようになることを目指します。

【開講日と場所、総講義時間数】
11月16日（日）、新宿校にて開講、全50時間（＝2時間半×20コマ）

【コース名と料金(税込)】

IFRS Certificate通学コース	231,000円
IFRS Certificate通信コース（eラーニング）	252,000円
IFRS Certificate販売コース（eラーニング）	210,000円

国際会計基準に関する知識を体系的に習得できる国内初の本格的コースです。また、本講座では国際会計基準の概要やフレームワークの理解から、実務で重要とされる会計処理についても学習いたします。

内部監査実務研修のご案内　～実務で役立つ知識・スキルを習得～

アビタスのCIA講義の中で、特に実務で役立つ知識・スキルを習得できると好評いただいている内容を「内部監査実務研修」として企業プログラム用に提供させていただきます。参加対象者は主に、内部監査・内部統制に携わる方々ですが、広く内部監査・内部統制の普及・啓蒙のための法人研修としても活用していただける内容です。

【概要（全4講義）】

内部監査概論	業務監査	財務諸表監査	サンプリング
1 内部監査の定義	1 手続きと検証項目	1 アサーション	1 一般的理解
2 内部監査の沿革	2 業務監査	2 実証性テスト	2 属性サンプリング
3 内部監査の流れ			3 変数サンプリング

【日程】第1講　12月 2日(火)18:30 ～21:30　第2講　12月　4日(木)18:30 ～21:30
　　第3講　12月 9日(火)18:30 ～21:30　第4講　12月 11日(木)18:30 ～21:30
【場　所】アビタス八重洲校　〒103-0027　東京都中央区　日本橋3-6-2 日本橋フロント4階
【参加費】お一人様 50,000円 （税込）(団体割引あり)
【お問合せ】内部監査実務研修担当:河原、伊藤　03-3299-3130　training@abitus.co.jp

■ 各種プログラム、法人向け研修コース、人材紹介に関するお問い合わせ

各種プログラム
TEL：03-3299-3330
担当：遠藤
info@abitus.co.jp

法人向け研修コース
TEL：03-3299-3130
担当：高橋
training@abitus.co.jp

人材紹介、キャリアセミナー
TEL：03-3299-3666
担当：熊谷
career@abitus.co.jp

■ アビタス通信に関するお問い合わせ

株式会社アビタス　広報担当　中嶌　abitus@abitus.co.jp
東京都渋谷区代々木2-1-1新宿マインズタワー15F　TEL：03-3299-3223

株式会社アビタス
http://www.abitus.co.jp/

[新　宿]〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-1-1　新宿マインズタワー15F　TEL：03-3299-3330　FAX：03-3299-3777
[八重洲]〒103-0027 東京都中央区日本橋3-6-2　日本橋フロント4F　TEL：03-3278-8800　FAX：03-3278-8801
[大　阪]〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-2　新サンケイビル8F　TEL：06-6341-1020　FAX：06-6341-1088
※銀座校は11月より、八重洲校へ移転となりました。